

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「学力伸長と進路実現」「心の教育の充実」を教育目標とし、教職員が生徒一人ひとりに寄り添い、丁寧な指導により生徒が学ぶ喜びを経験し、社会に貢献できる力をもった生徒を育てます。学び直しや昼間働くなど様々な条件の中で、「過去は変えられないが未来は変えられる」と強い意志を持ち、夜に学ぶ必要のある生徒を応援します。「三国丘の定時制の生徒なら大丈夫」と学校内外から評価・信頼される学校をめざします。

- 1) 学業と仕事を両立し、休まずに毎日の授業を大切にしている生徒を育てます。
- 2) 地域に信頼され愛される学校の取組を通して、他者を思いやり、ルールを守って主体的に行動ができる生徒を育てます。
- 3) 丁寧な個別指導、キャリア教育を通して、社会に貢献できる生徒を育てます。

2 中期的目標

1 学力伸長と進路実現（本校キャリア教育の推進）

- (1) 学力の定着と伸長を図り、確実な進路実現を果たす。
 - ア 中学校段階以前の欠落部分を補完することが可能な教育課程を編制し、学習到達度の幅が広い教科では習熟度別授業を実施し、モジュールを組み入れ、進路選択時に必要とされる学力を獲得させる。
 - イ ICT 機器などを活用した授業を行い、公開授業や研究授業、授業アンケートを効果的に活用して、組織的な授業力向上にさらに取り組み、学力伸長を図る。
※学校教育自己診断の生徒の授業満足度(平成 27 年度 75%、平成 28 年度 71%、平成 29 年度 76%)を毎年引き上げ、2020 年度までには 80%をめざす。
- (2) 卒業後の進路を生徒が各自で思い描けるよう、各年次段階に応じて適切な情報を提供・理解させる。
 - ア 進路指導計画に基づき、各年次に応じて年間数回の進路選択とキャリア能力の育成のためのホームルーム、及び進路説明会を実施する。
 - イ 年次に応じたキャリア教育を実施することで、進路意識の段階的醸成を図る。
- (3) 進路指導体制の強化により、進路実績の向上をめざす。
 - ア 卒業年次には、面談、面接・履歴書指導など生徒個々に合わせた指導体制により、確実な進路実現を図る。
 - イ 3 年間または 4 年間を見通したキャリア教育を推進し、卒業後の進路決定に向けた意識を高める。
※2020 年度も学校紹介等による就職と大学・短大等進学の実績（卒業生総数に対する割合）90%以上をめざし、若年無業者 10%未満を維持する。

2 心の教育の充実（モラル教育に重点を置いた教育体制の構築）

- (1) 「社会で正しく生きる」ために、他者の命を尊重する姿勢を身につけさせ、地域交流を通じて自己有用感を高める。
 - ア 「社会の一員」としての自覚醸成のため、生徒有志による地域との連携活動に積極的に取り組む。
※平成 29 年度は地域清掃活動、地元保育園等との地域交流を年間 4 回実施した。2020 年度に向け継続する。
- (2) 他者も自分も人権を尊重されるべきかけがえのない存在であることを気づかせ、すべての命を大切にする教育を行なう。
 - ア 社会に生きる多様な人たちと出会う人権学習を行う。
 - イ 生徒並びに教員の健康・環境衛生の意識・関心を高める。
※平成 29 年度は学年単位での HR を 2 回、フィールドワークを 1 回実施した。2020 年度に向け継続する。
- (3) 体育祭や文化祭など各種行事の参加により仲間との交流を深め、豊かな心を育む。
 - ア 総合学習「ふるさと堺探検隊」の高い参加率（平成 28 年度 75%、平成 29 年度 79%）を定着させ、事業主、保護者の理解を得て、2020 年度でも 75%以上の維持をめざす。この行事の実施により、仲間と協同し、堺の歴史と文化を学び、郷土愛を育む。
 - イ 体育祭、文化祭などの高い参加率（平成 28 年度 85%、平成 29 年度 86%）を定着させ、2020 年度でも 80%以上の維持をめざす。これらの行事を通して仲間との交流、コミュニケーションの大切さを学び、豊かな心を育む。
- (4) 組織として心の問題に対処できるよう、教育相談体制や個に応じた支援体制の充実を図り、学校への定着と卒業を支援する。
 - ア 教育相談委員会の機能・機動性向上のためにも外部機関との連携を重視し、さらに外部人材の活用を図る。
 - イ 学校の課題解決に向け、教職員の専門性を高めるため、外部機関との連携を図り、教職員向け課題研修を充実させる。
※平成 28 年度、29 年度は教職員研修を 6 回実施した。今後も外部機関との連携を図り、2020 年度でも研修年 5 回以上の実施定着を図る。
※最後まであきらめさせない指導により年度末の進級・卒業率（3 年卒業生数＋4 年進級者数／入学者数）を 2020 年度でも 60%以上を維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【「数字%⇒数字%」は前の値は昨年度、後ろの値は今年度の学校教育自己診断結果を示している。】</p> <p>【生徒理解】や【教育相談】の項目については、保護者、生徒、教員（「先生は子どものことを理解している。」保護者 81.1%⇒97.0%、「先生は生徒の意見を聞いてくれる。」生徒 82.8%⇒82.1%、「本校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。」教職員 100%⇒90.9%、「気になる事柄について先生に相談しやすい。」保護者 86.5%⇒90.9%、「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に自分が気になることについて話ができる先生がいる。」生徒 68.9%⇒68.7%、「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる。」教職員 100%⇒90.9%）は、高い値を維持している。しかし、【学校が楽しい】の項目について、保護者及び生徒（「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。」保護者 86.5%⇒66.7%「学校に行くのが楽しい。」生徒 74.6%⇒67.5%）共に大幅に低下している。【学習指導】の項目についても、保護者及び生徒（「授業はわかりやすく楽しい。」生徒 76.2%⇒73.5%、「教え方に工夫をしている先生が多い。」生徒 82.0%⇒77.8%、「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。」保護者 70.3%⇒66.7%、「子どもの学習内容に満足している。」保護者 73.0%⇒72.7%）共に微減している。【生徒指導】の項目では保護者（「学校の生徒指導の方針に共感できる。」保護者 86.5%⇒81.8%）が低下し、「(「学校生活についての先生の指導は納得できる。」生徒 67.2%⇒70.1%)」が上昇している。これらのことを踏まえ、生徒が学校に楽しく通える学校になるよう、友達関係の改善、自己有用感の向上、学校における居場所作り等について教職員で検討する。</p> <p>また、「学校経営に、教職員の意見が反映されている。」(教員 80.0%⇒68.2%)の項目は、課題を多く議論した年度は低くなる傾向があるが、これは教職員が学校をよくしたいという心の表れと感じる。学校のことを教職員が主体的に考え、教職員の意見を学校運営に反映しやすくするため、来年度からは年 2 回程度学校運営について議題を絞って議論できる機会を検討する。</p>	<p>第 1 回 平成 30 年 7 月 14 日開催 発達障がいや精神面での不安を持つ生徒を支援し、人とつながる体験の場を作るという面で、とてもよく対応されていると感じている。 バイタレンシップについて、「体験」で終わらせるのか、継続できそうならする方がいいのではないかと。 中学校卒業後、進学せずに働いている人が学ぶ場所として定時制高校に期待している。 平成 26 年度から平成 29 年度まで減少を続けた志願者数が今年度増加したのは、中学校訪問の効果か。転任間もない職員が訪れた場合に、中学校側の質問に対して十分に答えられない場合がある。</p> <p>第 2 回 平成 30 年 10 月 23 日開催 18 歳以上の支援が必要な生徒を就労支援につないでいるという説明があったが、18 歳未満の支援が必要な生徒を就労支援につなぐことは行政的に難しい。今後、学校としても課題になってくると考える。 教員数が減る中で、中学校訪問 72 校や多くの大会等でよい成績を収めていることを考えると教職員の頑張りが見える。 1 クラス約 20 名程度で授業を行っており生徒にとって、とても良い環境で学習ができている。さらに、英語や数学において少人数展開（1 クラス 2 展開等）を行っているため学び直しを行う環境としてとても良い。 小中学校で傷ついた自尊心を再生するのではなく再び育てるため、授業やクラブ活動、ボランティア活動等いろいろな形で自分を表現できる場が作られておりとても良い。</p> <p>第 3 回 平成 31 年 2 月 5 日開催 第 2 回学校説明会の参加者 62 名という数字は、中学校訪問やホームページの刷新など、学校の努力が功を奏した結果としてうれしく感じる。 府教育庁による出前研修では、3 回にわたって学校の実情を考え、最終的に学校経営計画への提言に結びつける育成研修はよい取り組みだと思った。 生徒会のボランティアは、現在地域清掃が年 2 回計 4 日間、保育園訪問が年 2 回 2 日間であるが、これが校外のボランティアに参加するきっかけになればよいと思う。 様々な理由から学校に行けなくなった生徒が入学し定着するには、ある程度の自由度がある学校生活が必要ではないか。教員の人数が少なく大変だとは思いますが、細やかな対応を心がけてほしい。 中学校ではエンパワメントスクールや定時制の課程等に進学する生徒の中にも大学などへの進学を希望する生徒が多くいる。三国丘高等学校では進学者が増えているので 0 時限等を活用して進学に向けた勉強ができるカリキュラムを考えれば独自性が出せるのではないかと。 生徒数を増やすのであれば、小学校、中学校等でひきこもりの経験がある人を支援している団体や機関、市役所のケースワーカー等に情報提供をしてはどうか。</p>

府立三国丘高等学校 定時制の課程

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力伸長と進路実現 (本校のキャリア教育の確立)	(1) 学力の定着と伸長 ア 研究授業、授業アンケートの効果的活用	(1) ア・授業力向上を図るため、各教科での授業アンケートを活用し、教員間の相互授業見学、研究授業・研究協議の実施。	(1) ア・経験年数の少ない教員は年1回研究授業。 ・授業アンケートを年2回実施し、後期の評価の平均を前期より向上させる。	(1) ア・3年目までの教員(初任者を除く)が研究授業を3回実施した。次年度以降、年2回以上行う仕組みを作った。(◎) ・学校平均は前期3.18 後期3.11 (△) (昨年前期3.27 後期3.21)
	イ 学ぶ意欲を引き出す	イ・多岐にわたる総合講座等を実施し、自己肯定感を高め、学ぶ意欲を引き出す。	イ・年度末のアンケート(H29年度91%)で肯定的評価70%をめざす。	イ・評価の肯定率は、87.7%であった。各教員が工夫して分かりやすく取り組みやすい授業を実践している。(◎)
	ウ わかりやすく楽しい授業をめざして	ウ・わかりやすく楽しい授業をめざし、ICT機器等の活用を図り、実技、実習・実験を工夫する。	ウ・生徒の自己診断「授業はわかりやすく楽しい」の肯定率(H28、29年度71%、76%)77%。 ・自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率(H28、29年度79%、82%)80%。	ウ・「授業はわかりやすく楽しい」73.5%(昨年度比△2.7)(△) ・「教え方に工夫をしている先生が多い」77.8%(昨年度比△4.2)(△)
	エ 基礎学力の定着・向上	エ・英語・数学での習熟度授業で生徒の基礎学力定着、向上を図る。	エ・基礎学力診断テスト(1年英・数・国)の4月から2月での伸長度35%増とする。	エ・英語84.9% 数学15.2% 国語7.7%の伸長度であった。(△)
	(2) 年次段階に応じた適切な進路指導と情報の提供・理解 ア 組織的な進路指導体制 イ キャリア教育の推進	(2) ア・進路部中心に進路指導体制の全体計画を立案し、進路・担任の合同会議で適宜調整する。 イ・多様な生徒のニーズに応えるべく、進路説明会を「概要説明」→「進路決定に必要な準備」→「志望校の決定や求人票の見方」と段階的・体系的に実施する。 ・進路意識の段階的醸成をめざしたキャリア教育を実施する。	(2) ア・進路・担任合同会議を定期的(年3回以上)に開催。 イ・1・2年次生への進路説明会を年3回、卒業学年への進路説明会を年2回実施。 ・各学年に応じたキャリア教育を年3回実施。	(2) ア・これまで進路・担任合同会議を6回行った。生徒の情報共有ができた。(◎) イ・1・2年次生には2回(6月・2月実施予定)。卒業学年には4回(4月・5月・6月・7月)。各説明会が生徒にとって進路選択するためのいい機会となった。(◎) ・1回目5月に実施(1・2年次生:進路指導の概要、3・4年次生:求人票の見方)。 2回目12月に実施(1年次生:一般職業適性検査、2年次生:専門学校による出前授業、3・4年次生:企業の方による講話)。 3回目1月に実施(1年次生:卒業生講話、2年次生:マネー講座、3・4年次生:労働法セミナー)。各学年の課題に応じた内容の取組みができた。(◎)
	(3) 進路実績の向上 ア 広報活動	(3) ア・積極的な広報活動により、三国丘高等学校定時制の存在をアピールする	(3) ア・卒業生の進路先などの毎年新たな広報用資料を制作。新たな企業開拓、学校説明に活用。 ・学校HPの月2回の更新。	(3) ア・学校説明用リーフレットについて時点変更を行った。企業開拓のために、ハローワーク堺に学校パンフレット及びリーフレットを50部配布。中学校訪問で学校説明に活用(◎) ・本校webページを月2回以上適時更新中。1月末より本校webページを一新した。LINE@を使った情報提供を年23回実施。(◎)
	イ 応募前職場見学の実施	イ・学校紹介による就職希望者全員に応募前職場見学を実施させる。	イ・就職希望者全員に応募前職場見学を実施。	イ・就職希望者全員が応募前職場見学に参加した(10名の生徒が延べ22社に見学)。複数社に見学することを条件とすることで進路決定がスムーズにできた。(◎)
	ウ 個別指導体制	ウ・進路面談、面接・履歴書指導を行い、生徒個々に合わせた指導体制を作り進路実績の向上をめざす。	ウ・就職・進学希望者全員への面談の実施。 ・履歴書講座の実施。	ウ・就職・進学希望者全員への面談を実施。個々の事情に応じた相談や指導ができた。(◎) ・7月に実施。生徒の意欲向上に効果があった。(◎)
	エ 卒業予定者の若年無業者の減少	エ・ハローワークと連携し、卒業後の若年無業者を減少させる。	エ・若年無業者(進学・就職等を希望しない生徒を除く)の割合(H27、28、29年度0%、0%、0%)10%未満を維持。	エ・若年無業者率は0%である。(◎)

府立三国丘高等学校 定時制の課程

<p>2 心の教育の充実（モラル教育に重点を置いた教育体制の構築）</p>	<p>(1) 他者の命を尊重する姿勢の育成 ア 生徒会中心にボランティア活動の実施</p> <p>イ 地域交流の推進</p> <p>(2) 人命尊重の教育の推進 ア 多様性を学ぶ人権学習を実施</p> <p>イ 健康への関心を高める</p> <p>ウ 美化意識を高める</p> <p>エ 健康診断受検率の維持</p> <p>オ 歯・口腔への関心を維持する</p> <p>カ 働き方改革の実行</p> <p>(3) 各種行事の参加により自尊感情を高める ア 郷土愛を育む</p> <p>イ 仲間との交流により豊かな心を育む</p> <p>(4) 教育相談の充実と学校への定着、進級・卒業の支援 ア 三国丘（定）の存在を地域にアピール</p> <p>イ 支援を必要とする生徒の情報共有</p> <p>ウ 外部機関との連携強化</p> <p>エ 日本語支援の必要な生徒の困り感を解消</p> <p>オ 相談機関との連携</p> <p>カ 学校課題解決に向けて</p> <p>キ 相談しやすい環境づくり</p> <p>ク 編転を除く進級・卒業率向上をめざして</p>	<p>(1) ア・生徒会中心に、地域との連携を踏まえ、地域清掃ボランティア活動を行う。</p> <p>イ・地元保育園との交流活動を計画・実施。</p> <p>(2) ア・社会に生きる様々な人たちと出会い深く考える研修や人権学習を企画する。</p> <p>イ・生徒の健康・環境衛生への関心を高めるため、生徒保健委員会を開催する。</p> <p>ウ・清掃活動を通して、生徒の美化意識を高める。</p> <p>エ・疾病の早期発見・早期治療をめざすため、健康診断受検率を維持する。</p> <p>オ・う歯の減少と歯周疾患の予防の為、ブラッシング講習を実施。</p> <p>カ・教職員の心と健康を守るため、長時間勤務の是正を図る。</p> <p>(3) ア・総合学習「ふるさと堺探検隊」を通じて郷土愛を育み、地域を知る。</p> <p>イ・体育祭、文化祭などの行事を通して仲間との交流、コミュニケーションの大切さを学び、豊かな心を育む。</p> <p>(4) ア・引きこもり、不登校、ネグレクトなど支援を必要とする生徒に居場所・三国丘（定）の存在を地域にアピールすべく広報を強化。</p> <p>イ・支援を必要とする生徒の情報を共有し情報交換を行うため、SCを活用し、教育相談委員会を定例で開催する。</p> <p>ウ・帝塚山学院大学大学院との連携し、ハートケアサポーター機能を高める。</p> <p>エ・日本語支援の必要な生徒の困り感を低減する。</p> <p>オ・外部の相談機関等との連携を継続強化する。</p> <p>カ・本校が直面する学校課題解決に向け、教職員向け研修を実施する。</p> <p>キ・担任、SC、教育相談委員会の連携システムを強化確立し、生徒が相談しやすい環境づくりを行う。</p> <p>ク・最後まであきらめさせない個々の生徒への指導・支援により、学校への定着を図り、進級・卒業を支援する。</p>	<p>(1) ア・生徒会中心に、地域清掃ボランティアの生徒参加者1日10名をめざし、年2回実施。</p> <p>イ・地元の保育園との交流を年2回実施。</p> <p>(2) ア・人権教育推進委員会が中心となって年4回実施。</p> <p>・SNS等情報モラルについて年1回実施。</p> <p>イ・薬物乱用防止、交通安全講習等必要なテーマで研修を計画的に行う。生徒アンケートの肯定的評価(H28年度薬物86%、交通83%、29年度薬物85%、交通96%)80%以上めざす。</p> <p>ウ・生徒保健委員会を学校行事時に年間4回実施。</p> <p>エ・健康診断の受検率(H28、29年度95、96%)の85%以上。</p> <p>オ・歯科医、歯科衛生士によるブラッシング講習を実施し、治療と歯周疾患予防への興味関心を高め、う歯のない生徒と治療・歯周疾患完了者50%以上。</p> <p>カ・毎週金曜日は「定時退庁日」とする。「ノークラブデー」はクラブごとに設定。</p> <p>(3) ア・生徒の行事参加率(H28、29年度75%、79%)の75%以上の維持をめざす。</p> <p>イ・生徒の行事参加率(H28、29年度体育祭82%、86%、文化祭91%、87%)の80%以上の維持をめざす。 ・生徒の自己診断「体育祭は楽しく行えるよう工夫されている」(H28、29年度76%、82%)、「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」(H28、29年度80%、86%)の肯定率80%以上をめざす。</p> <p>(4) ア・教員全体で中学校訪問を行い、三国丘（定）の面倒見の良さをアピールする。</p> <p>イ・教育相談委員会を月1回以上開催。</p> <p>ウ・臨床心理士候補の大学院生が教育相談のサポーターとして年30回(H28、29年度100回、67回)来校し生徒支援にあたる。</p> <p>エ・日本語支援の教育活動をすすめ、当該生徒の進級・卒業をめざす。</p> <p>オ・外部機関との連携を必要に応じ実施。</p> <p>カ・教職員向け研修を年3回、とフレッシュマン研修を年間2回開催。</p> <p>キ・生徒の自己診断「担任以外で保健室・相談室に相談できる先生がいる」の肯定率(H27、28、29年度62%、63%、69%)65%以上をめざす。</p> <p>ク・編転を除く年度末の進級・卒業率(3年卒業生数+4年進級者数/入学者数)55%以上。</p>	<p>(1) ア・地域清掃ボランティア(夏季)は1日目23名、2日目20名が参加。(冬季)は1日目15名、2日目14名が参加(◎)</p> <p>イ・地元保育園との交流に夏季11名、冬季は12名が参加。昨年度と比較して、参加者が大幅に増加した。(◎)</p> <p>(2) ア・教員向け、生徒向け併せて5回実施(◎) 【生徒向け】 9/18各年次単位により実施 10/2コリアタウンFW実施 1/27各年次単位により実施 【教員向け】 5/1セクシャルマイノリティー何? 6/14子どもの貧困～未来を奪われる子どもたち～</p> <p>・(人権・生指) SNSに係る講習(◎) 4/17 1年次 7/13 全学年 1/27 4年次</p> <p>イ・薬物乱用防止は肯定的評価84.3%。交通安全講習についてはアンケート未実施。(○)</p> <p>ウ・5/24、9/3、10/30、2/19に実施。大掃除は6/26、11/6実施(◎)</p> <p>エ・健康診断の受検率95.2%(◎)</p> <p>オ・7/20に実施、1年生36名参加。肯定的意見72%。う歯のない生徒と治療完了者73.0%(◎)</p> <p>カ・金曜日において1時間を超える残業を行っている者はいない。(◎) クラブにおいて、すべての部活動において週3回以上活動しない日が設けられている。(◎)</p> <p>(3) ア・10/20実施分参加生徒数と参加率92名88.5%(昨年度93名79.5%) 12/25実施分 対象者19名中14名参加 H30年度は81%(◎)</p> <p>イ・体育祭参加率82.6%。文化祭参加率87.1%(◎) ・「体育祭は楽しく行えるよう工夫されている」75.2%(昨年度比△6.8)「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」78.6%(昨年度比△7.4)(△)</p> <p>(4) ア・7月下旬から10月中旬にかけて、堺市と近隣8市の中学校72校を訪問(◎)</p> <p>イ・月1回の開催。 教育相談委員会を行った後、次の職員会議で情報共有を行っている。(○)</p> <p>ウ・9月末までに週1回2名が15回(延べ30回)1月末までに週2回2名が14回、計延べ44回来校していただいた。(◎)</p> <p>エ・日本語以外を母語とする生徒に対し、国語と社会で抽出授業。各教科丁寧な指導実施(○)</p> <p>オ・1名の卒業予定者に関して、夏期休業明けから就労移行施設につなげている。2名の生徒について生徒の主治医等と連携を取りながら生徒の学校生活を支援した。(◎)</p> <p>カ・全体研修を9回、フレッシュマン研修2回、勉強会3回を実施した。(◎) 【研修】 5/1セクシャルマイノリティー何? 5/11スカラシップアドバイザーによる奨学金等進学資金ガイダンス 6/14子どもの貧困～未来を奪われる子どもたち～ 7/24第1回育成支援チーム8/27教職員AED講習 9/26さすまた研修10/19保護者理解研修 9/27第2回育成支援チーム 12/19第3回育成支援チーム 【フレッシュマン研修】 7/27校長による研修(1) 1/18校長による研修(2) 【勉強会】 4/26編転入学勉強会10/4担任勉強会 1/7ICT勉強会</p> <p>キ・「担任以外で保健室・相談室に相談できる先生がいる」66.7%(昨年度比△2.2)(○)</p> <p>ク・(教務・教頭)本校にH28に入学した37名の内3年生において4年進級10名、卒業12名になった。進級・卒業率は59.5%であった。(◎)</p>
---	---	---	---	--